

○～○～○～○～○～○～○～○～○～○～○～○～○～○～○～○

附属特別支援学校 教職員の皆さまへ

こんにちは、いつもお世話になっております。特別支援教育連携推進グループです。

「SNE-T mini」のメルマガ令和4年度1月号をお送り致します。

※「SNE-T mini」のメルマガは、定期的に連携推進グループの活動について報告しております。

：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：

【報告】第6回 5附属連絡会議 各校の実践発表について

：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：

1月12日(木)に、第6回5附属連絡会議が開催されました。今回は、附属聴覚特別支援学校 佐藤文昭先生から「虫食いプリント」、附属大塚特別支援学校 厚谷秀宏先生から「くねくねマラカスフォーマット」の教材・指導法のご紹介がありました。どちらも、グループの教材・指導法データベースに掲載されています。佐藤先生は教材の写真や指導の動画をもとに、なぜこのような指導が聴覚に障害がある子供たちに必要なかを具体的に説明してくださいました。教材だけを見て、こう使うのかな、こんな効果があるのではと想像しますが、話を聞いたり、実際に使っている様子を見たりすることで、予想もしなかった指導のねらいに気付かされることがあります。それが他障害種の理解にもつながっていくようです。この穴あきのプリントも単に穴うめし、言葉をあてる学習ではなく、例えば様々な言葉を推測する力を育てるなど、言葉の概念を小さい頃から丁寧に育てていかれている聴覚障害教育の教材だと理解できました。

また、大塚の厚谷先生からは、昨年度の特殊教育学会で教育講演として公開した動画から、大塚の教材・指導法「くねくねマラカスフォーマット」の部分を提供いただき、みんなで視聴しました。教材を制作された若井先生も5附属連絡構成員として参加していただき、ご本人から直接お話を聞くことができました。「『くねくねマラカス』の一番の特徴は、持ち手が付いていて相手とつながることで、動きを合わせる、動きを支えられながら合わせていく、模倣が難しい幼児に動きがあっていることを経験、共有することができる。」とのことでした。また、作詞・作曲した根岸先生は現在グループ教員です。寄せられたコメントの一部を紹介します。「上下・左右・前後の動きを伴った実体験を通して『合わせる』ことを学び、自己調整力を養うことができる。」ということです。

発表いただいた先生方、教材を提供して下さった先生ありがとうございました。

次回は、令和5年3月2日(木) 15:30～16:45です。

どなたも参加できます。ぜひ、ご参加ください。

：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

【お知らせ】第3回教材・指導法コンテスト 2022 教材の応募ありがとうございました

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

各学校より49点の応募がありました。お忙しい中、たくさんの教材を寄せいただき感謝申し上げます。早速、グループ教員による第1次審査に取り掛かりました。それぞれの学校で先生方が実際に指導に使用されている物であるので成果は明らかです。その優れた教材の中から、十数点選ぶのに苦労しました。この後、第2次審査を、各学校の校長先生・副校長先生、5附属連絡構成員の先生、筑波大学人間系リサーチユニットの先生に選考していただきます。その後、教育長、次長、教育長補佐の先生に第3次審査を行っていただき、3月には最優秀賞（木村賞）1点、優秀賞（2点）を決定いたします。どんな教材・指導法が選ばれるか、皆さんどうぞ楽しみにしてください。

また、教材・指導法はいつでも応募することができます。5附属連絡構成員か、グループ教員に声をお掛けください。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

○～○～○～○～○～○～○～○～○～○～○～○～○～○～○～○～○

特別支援教育連携推進グループ 令和5年1月27日（1月号）
～5つの附属特別支援学校をつなぐメールマガジン「SNE-T mini」～
〒112-0012
東京都文京区大塚 3-29-1（筑波大学東京キャンパス文京校舎）
TEL 03-3942-6923 FAX 03-3942-6938

当グループのメールアドレスとHPのURLが、かわりました。
<https://www.gakko.otsuka.tsukuba.ac.jp/snerc/>
snerc@gakko.otsuka.tsukuba.ac.jp

○～○～○～○～○～○～○～○～○～○～○～○～○～○～○～○